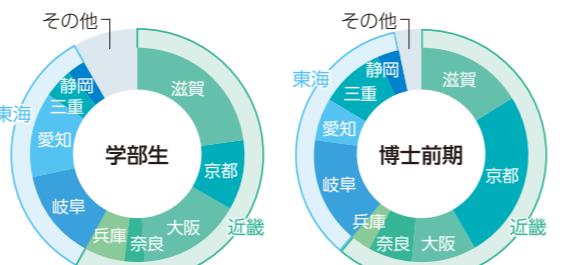


2020年春 卒業・修了予定者 (2018年10月 在籍)

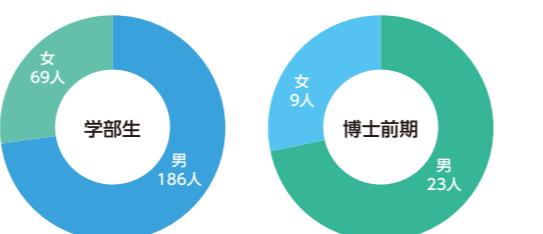
学生数

学部	
バイオサイエンス学部	255人
バイオサイエンス学科	153人
アニマルバイオサイエンス学科	55人
コンピュータバイオサイエンス学科	21人
臨床検査学プログラム	26人

出身地域



男女比率



出身都道府県

出身都道府県	近畿				東海				北陸				中国				四国				九州				その他				計
	滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	兵庫県	岐阜県	愛知県	三重県	静岡県	富山県	福井県	岡山県	広島県	山口県	鳥取県	香川県	徳島県	長崎県	鹿児島	宮城県	新潟県	千葉県	長野県	栃木県	留学生				
学部	バイオサイエンス学科	37	13	24	4	11	15	20	5	4	2	3	1	2			1	1	1	2	1	1	1	1	3	153	255		
	アニマルバイオサイエンス学科	5	5	13	3	3	8	11	2			2	1				1							1		55			
	コンピュータバイオサイエンス学科	9		3		1	5	1	1							1										21			
	臨床検査学プログラム	7	3	1		1	5	2	2	2	1									1	1					26			
大学院	博士課程前期課程	5	8	3	2	1	5	2	3	1						1										1	32	34	
	博士課程後期課程	1							1																		2		
計				64	29	44	9	17	38	36	12	9	3	5	2	2	1	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	4	
					163				95				8			6		3		2					8		4		

求人のお申込みについて

求人受付NAVI

本学への求人のお申込みは、インターネットを利用し「求人受付NAVI」にてお願い致します。企業・団体様が直接ご登録いただることにより、迅速に学生への求人票の公開が可能となっております。ご協力のほどよろしくお願い致します。

求人受付NAVI



書式によるご提供

- 求人受付NAVIIに求人申し込みをされない企業・団体様につきましては、「求人票(本学様式、独自様式いずれも可)」と共に「自己申告書チェックシート」をEmail・郵送・FAXいずれかにてご送付願います。
- ご提供時に「会社説明会・セミナー等のご案内」および「貴社パンフレット」を同封頂けますと幸いです。
- 本学様式は下記のURLよりダウンロードしてご利用頂けます。
URL:<http://www.sasegakuen-i-his.co.jp/courses/> (或上についての要領)

【送付・お問合せ先】

〒526-0829 滋賀県長浜市田村町1266番地
長浜バイオ大学 就職・キャリア担当 求人係宛
TEL:0749-64-8181 (直通) FAX:0749-64-8140
公式HP:<http://www.nagahama-i-bio.ac.jp/>
-mail:shushoku@ml.nagahama-i-bio.ac.jp

Campus Access

長浜バイオ大学へのアクセス

- JR 京都駅から 70 分
※新幹線利用— 34 分
 - JR 大阪駅から 100 分
※新幹線利用— 62 分
 - JR 岐阜駅から 70 分
 - JR 名古屋駅から 100 分
※新幹線利用— 46 分

-



バイオサイエンス学部

バイオサイエンス学科
アニマルバイオサイエンス学科
コンピュータバイオサイエンス学科
臨床検査学プログラム(臨床検査技師養成)

バイオサイエンス研究科

博士課程前期課程 博士課程後期課程



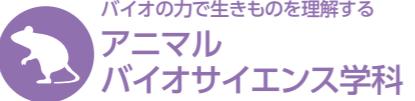
学部 総合的なバイオの知識と技術を習得するトータルな人材育成プログラム



分子レベルで生命の仕組みを学ぶ
バイオサイエンス学科

創薬・機能物質プログラム
環境・植物制御プログラム
遺伝子・細胞新機能プログラム

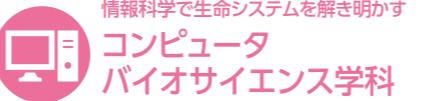
生物学、農学、薬学、医学など幅広い領域を、分子、個体、環境など、あらゆる階層レベルで学んでいます。基本から実践に至るバイオサイエンスの知識と技術を修得し、食品、医薬、エネルギー、環境などの分野の社会的ニーズに対応できる次世代を担う人材を育成しています。バイオサイエンス学科では、3つの専門教育プログラムから1プログラムを選択し学びます。



バイオの力で生きものを理解する
アニマルバイオサイエンス学科

アニマルバイオサイエンス専門教育プログラム

バイオサイエンスの要素的・基礎的な知識・技術を基盤として、個体レベルにおける生命現象の理解のもとに、生物多様性学、動物科学、実験動物学、食品機能学、食品衛生学などに関する知識・技術とその応用能力、さらに理論的・実践的思考能力を修得し、21世紀型社会に貢献できる人材を育成します。また、実験動物技術者試験の特例認定校として、在学中に1級受験資格が得られるとともに、食品衛生課程修了で国家資格である食品衛生管理者の資格を取得できます。

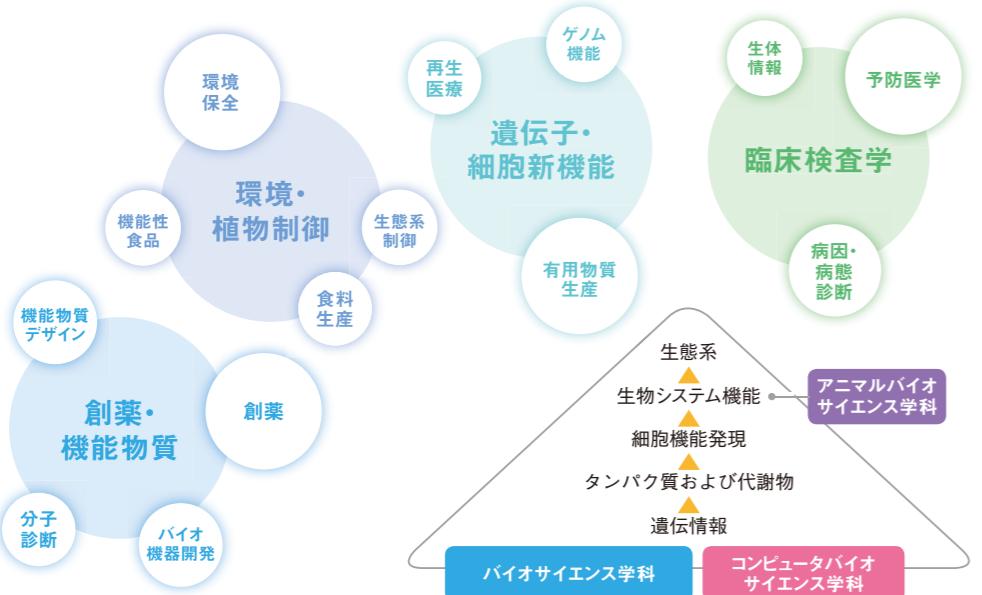


情報科学で生命システムを解き明かす
コンピュータバイオサイエンス学科

情報生物学専門プログラム
医療情報技術専門プログラム

生物医療情報学を学び、とりわけ情報処理やデータ解析の視点から、医薬・医療、食品、環境、情報等の分野で社会に貢献できる研究者、技術者、データサイエンティスト、実務者等を育成します。コンピュータバイオサイエンス学科では、2つの専門教育プログラムから1プログラムを選択し学びます。

*2019年度入学生(2023年3月卒業生)から学部再編により情報系の学びを全学科共通に学びAI・データサイエンス時代に対応するバイオ人材の育成を図ります。



臨床検査学プログラム 次世代の医療を担う医療人・臨床検査技師の育成 【第2期生卒業予定】



バイオの知識と技術を備えた臨床検査技師をめざす
バイオサイエンス学科
臨床検査学プログラム

本学が育成するのは「臨床検査技師の資格を持つバイオの専門家」です。2015年から開設した臨床検査学プログラムは生命の尊厳と倫理観を重視したバイオサイエンス教育を基盤として、学際的なバイオサイエンス&テクノロジーを修得した、問題解決能力を持つ臨床検査技師の育成を目指しているところに最大の特色があります。

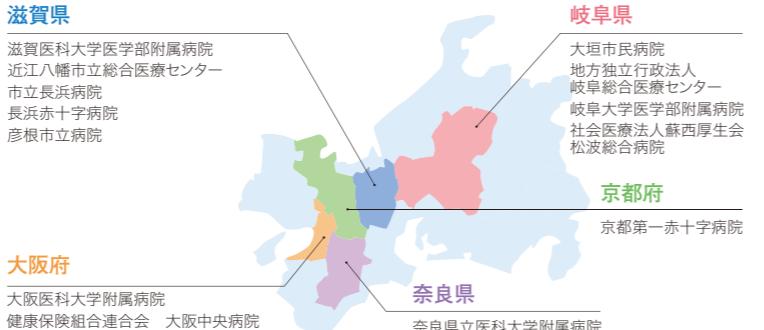
チーム医療を担う一員としての協調性と責任感、コミュニケーション能力を備えた人材の育成を目標としております。



4年間の学びの流れ

1年次	2年次	3年次	4年次	...	大学院
● 学部共通 一般教育プログラム	● 臨床検査学プログラム 臨床検査学の基本的な講義と実習 バイオの知識修得	● 学部共通 専門コアプログラム	● 臨床検査学の講義と実習	● 臨地実習 ● 卒業研究 ● 文献調査・講読 ● 国家試験の準備 ● 国家試験	...

臨地実習病院(滋賀・京都・大阪・奈良・岐阜の13病院)



ごあいさつ

産業の担い手として期待される本学卒業生

本学は、わが国唯一の「バイオの総合大学」として2003年4月に開学し、以来3,000名以上の学部卒業生・大学院修了生を送り出しております。本学の卒業生・修了生は、多くの企業、団体や自治体等で活躍の場を与えられ、幸いなことに、高い評価をいただいております。これまで本学の卒業生・修了生をご採用、あるいは採用のご検討を賜りました企業、団体等の皆様に厚くお礼申し上げます。

本学は、第二次世界大戦後の1946年に若者に学びの場を提供するために設立された京都人文学園をその前身としています。同人文学園の教育理念である「行動する思考人」の育成を今に引き継ぎ、社会の要請に応えるため、高度な専門性に加えて、高い倫理性と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目標に掲げて取り組んで参りました。

専門科目とキャリア科目の両輪で学生の根幹的な実力を養成することを目指して2014年度にはカリキュラム改革を実施し、専門分野の知識・高度技術の修得や倫理観等の養成に加えて、本学が社会人基礎力の基本と考える「自律力」「柔軟力」「論理的思考力」「課題解決能力」の育成に、特に注力しております。また、基本的情報技術を身に付けるとともに、西オーストラリア大学への短期留学制度を充実させ、中国、韓国、タイなどの大学との研究交流を通して国際的感覚の醸成を図ってきました。

このような特色あるカリキュラムのもとで行われる教育活動および研究指導が、ご採用いただいた多くの企業からの高い評価につながっているものと確信しております。

このたび2020年3月に卒業・修了予定の学部第14期生、大学院第12期生が、就職活動を開始いたします。貴社におかれましては採用活動のご準備に着手されていること存じますが、本学卒業・修了予定者は、実社会においてその能力を十分に発揮し貢献する覚悟でおりますので、是非とも求人を賜りたく、よろしくお取り計らいのほどお願い申し上げます。

本学では今後も、食品、健康、医療、環境をはじめとするライフサイエンス分野、あらゆる方面で基盤となりつつある情報技術分野において、高い技術力と倫理観、社会人として必要とされる能力を兼ね備えた産業の担い手を輩出できるよう教職員一丸となって努力して参りますので、引き続きご支援を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

オンラインの「バイオ総合大学」

バイオとは、生物学はもちろん、医学や薬学、農学、工学、物理学などが学際的に融合した新しい領域の学問です。

長浜バイオ大学ではこのような新しい学問領域のバイオを、遺伝情報からタンパク質とその代謝物、細胞の機能発現から生物システムの機能、生態系までの階級層を、分子レベルでトータルに学びます。また、コンピュータバイオサイエンス学科では、コンピュータを使った生命情報科学の基礎から応用を学び、アニマルバイオサイエンス学科では、生物(個体)に統合されたバイオを学ぶ、といった他大学には例を見ない「バイオの総合大学」です。

教育理念

本学は、前身である京都人文学園から受け継いだ、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を、教育理念としています。

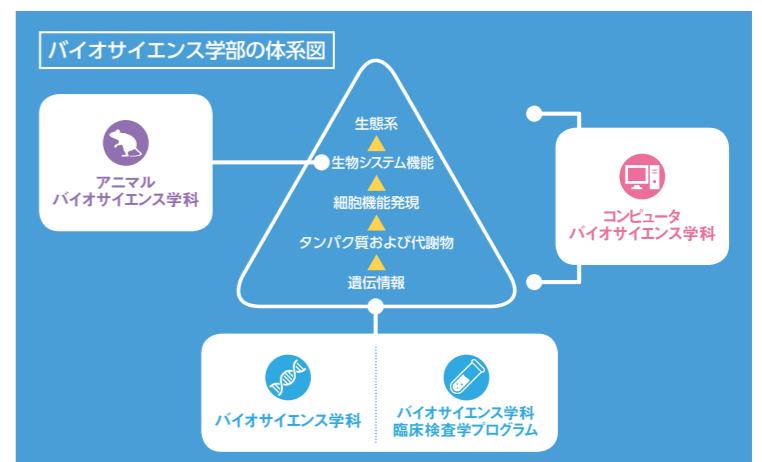
本学における人材育成のポリシー

<学 部>

広い教養とバイオサイエンスの専門知識・技術を兼ね備え、産業の振興および学術文化の発展に寄与する人材であること。

1. バイオサイエンスの深い知識を基盤とした専門技術力を持つ
2. 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ
3. 生命への尊敬と倫理観、地球環境への洞察力を持つ
4. 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ
5. 他者と意見を疏通し、協力して物事にあたる行動力を持つ

これら的能力の獲得と、学部の教育課程に規定する所定単位の取得をもって、学士課程学位を授与します。



<大学院(修士)>

バイオサイエンス研究科博士課程前期課程では、教育・研究を通してバイオサイエンスの知識に裏打ちされた問題発見解決能力と自然に対する崇拠な倫理観を持ち、社会を支え国際社会でも活躍しうる人材育成を目指している。この様な観点から、バイオサイエンス研究科博士課程前期課程に所定の期間在学し、30単位以上を修得した上で、以下の条件を満たした学生に修士(バイオサイエンス)の学位を授与する。

1. 分子バイオ科学技術特別研究または統合バイオ科学技術特別研究の成果を修士論文として提出後、論文審査に合格している。
2. バイオサイエンスの高度な専門知識・技術を習得しており、高い生命倫理と科学者倫理を兼ね備えている。
3. 研究の目的と背景を理解し、問題の分析と課題の発見ができる、課題の解決方法を見いだすことができる。
4. みずから研究成果を明解に説明できるプレゼンテーション能力を持つと共に、国際化に対応できるコミュニケーション能力を習得している。

大学院 学部教育と連携しスペシャリストを育成



バイオサイエンス研究科

学部教育での3学科を分子バイオ科学技術領域と統合バイオ科学技術領域に再編し、バイオを幅広く、融合的に学びます。ビジネスマインドを持ちながら、情報解析技術・環境科学・医薬学等を広範なバイオの専門的技術知識を生かし、社会で幅広く活躍できる人材を育成しています。

博士課程後期課程(博士)
バイオ科学技術研究領域

博士課程前期課程(修士)
分子バイオ科学技術領域
統合バイオ科学技術領域



体系的なカリキュラムを通じて

社会人基礎力の獲得を目指す

実験実習

本学が誇る基礎から最先端のバイオ技術を学ぶ実験・実習

実際の研究現場で通用する技術力・応用力を身につけるため、本学のカリキュラムでは実験・実習を徹底的に重視しています。専門領域ごとに4人から8人グループ単位で進め、教員・大学院生のTA（ティーチングアシスタント）も加え1人ひとりきめ細かく援助・指導します。

1年次から本格的な実験を設け、段階的にレベルアップを図ります。「実験ノート」と「実験レポート」の記入を通じて、書き方や記録の仕方を学び、教員スタッフが添削を行います。実験を計画、結果を記録、それらを他人に報告・発表するという、実社会で求められるスキルを育みます。

専門技術の獲得



バイオサイエンス学科 実習



アニマルバイオサイエンス学科 実習



臨床検査学PG 実習

群を抜いた豊富な実験・実習時間

1年次	2年次	3年次	卒業研究までの3年間で約900時間
基礎実験 180時間	応用実験 360時間	専門実験 324時間	
コンピュータ基礎実習60時間	生命情報学応用実習60時間		※この他にコンピュータバイオサイエンス学科は生命情報科学専門実習、データベース実習、プログラミング実習等があります。

自律力 → 柔軟力 → 論理的思考力 → 問題解決能力

正確な情報の伝達力

実験ノートとレポートの添削・指導を通じて、他者に分かるように情報を伝える社会で求められる能力を身に付けます。



プレゼンテーションによる知識の深化

3年次前期に行われる「バイオサイエンス専門実験ⅠB」（環境・植物系）は、大学近くの里山や琵琶湖畔で自ら採取した植物の学名を、様々な手段を用いて同定します。実験最終日には、全員が実験結果をプレゼンテーションして、学生同士で質疑応答を行います。実験の特徴は、各自が採取してきた異なる植物を用いて実験するため、異なる結果が得られることです。実習では自分の実験結果と解析結果だけを用いてそれぞれの回答を導き出します。この実験によって得られた結果の意味を自分で考え、論理的に結論を導き出す能力を養います。



コンピュータバイオサイエンス学科 実習 アニマルバイオサイエンス学科 実習

「主体性」「チームワーク力」向上のための取り組み アクティブラーニング



今問われている倫理テーマをグループ討論で考察

▶「生命倫理・研究倫理」（1年次必修）

各分野からの講師を招き、生命倫理・研究倫理に関わる諸問題およびトピックス等を解説を通じて、倫理的・法的・社会的課題を広い視点から考えることができる能力を養成します。テーマ毎にグループで討論を行い、他の意見を理解し、自分の意見を皆の前で述べ、意見をまとめる能力を養います。

セミナー形式で培う説明力・プレゼンテーション能力

▶「卒業論文」「文献調査・講読」（4年次必修）

指導教員のもとで「卒業研究」「文献調査・講読」に取り組みます。関連分野の文献を調査し計画を組み立て研究を行い、成果を卒業論文としてまとめる過程を通して、研究者あるいは技術者として必要な問題解決のための力を身に付けます。完成した論文は学科・研究室ごとに「卒業研究発表会」が行われ、1年次より鍛え上げたプレゼン力を発揮し大学4年間の学びの集大成を披露します。

実験実習 アクティブラーニング

主体的に学ぶ力を身につけながら、就業力の育成を図る

主体的に学ぶ力を身につけ就業力の育成を図るキャリア教育を、本学では卒業に必要な正課の科目として位置付けています。就業力の基礎となる能力を地元産業界との連携による実践的な学びの中で伸ばします。

学びの場を大学内部の取り組みから地域社会と連携した取り組みへ、学びの質も客観的・受動的から主体的・能動的なものへと段階的に学びを発展させていることも大きな特徴です。

身につける能力

柔軟力

自らを取り巻く環境・事態の変化や、異なる価値観を持つ人たちとの関係構築に、柔軟かつ前向きに対処する能力

自律力

自らの判断で自らが取るべき行動を決定し、実行する能力

論理的思考力

対象となる事柄を、原因と結果の因果関係を明らかにしつつ、論理的に理解し伝えることできる能力

キャリア教育の科目と目的

	前期	夏期集中	後期	春期集中
1年次	大学での学びと実践方法（必修） グループ単位で選択したテーマを調査し、自ら調査する力、情報源を見分ける力、情報を整理する力を修得する。	共生社会の形成と私たちの役割 しあがい作者作所などでの協働体験やヒアリングを通じて、健常者としあがい者が共生できる社会について考える。	長浜バイオ大学魅力紹介プロジェクト 大学の魅力を表現したプロモーションビデオをグループ単位で制作。優秀作は、市民にも公開した成果発表会でプレゼン。	社風発見インターンシップ 滋賀・京都・奈良の13大学の連携による低学年次からのインターンシッププログラム。企業研究と体験実習を実施する。
2年次	社会の問題と解決方法（必修※） 科学技術の進歩や国際化の進展などに伴って起きる社会問題について、論文情報や新聞情報を収集し、構想した解決策を発表する	マーケティング戦略の立案I 企業の課題解決法を学んだ後、企業で活躍する方を講師に招き、実際のサービスを題材にしてブランド戦略を立案する。	長浜魅力づくりプロジェクト 地域住民と共同で、長浜の魅力を発信するイベント開催のPBL型授業（Project-based Learning）。	マーケティング戦略の立案II 企業の課題解決法を学んだ後、企業で活躍する方を講師に招き、実際のサービスを題材としてブランド戦略を立案する。
3年次	社会との関わりとキャリアパス 業界や職種について基礎的な知識の学習、企業経営者や卒業生との交流を通して、自らの職業選択に活用する。	インターンシップ実習 長期休暇を活用して、一定期間の就業を体験。実際に社会で働くことで、自らの将来設計をより確固たるものにする。	3年間の集大成!	■ 問題解決力の育成 ■ チームによる課題対応 ■ 社会理解と社会適応

※臨床検査学プログラム履修生は選択科目



梅酒プロジェクト



女性層を意識した華やかな紅色と清冽な酸味が特徴の梅酒「つぼみうめ にごり」は学生がネーミングしました。

地元企業と学生が共同開発

学生が主体となり地元醸造メーカーと長浜市の風土に根差した「梅酒づくり」を行いました。6月に青梅を摘み取り、漬け込んだ梅酒をサンプリングして、香気成分やアミノ酸組成、ポリフェノール等の分析調査を行いました。市販梅酒の官能評価を2回行うとともに梅についての学習会を行い、完成した梅酒がお披露目されました。梅酒プロジェクトは2018年度より二年目が始動しています。

キャリア教育力

地域社会と連携した就業力の育成

